

議 事 録

会議の名称	平成 29 年度第 1 回太子町総合教育会議
開催の日時	平成 29 年 10 月 16 日（月） 15 時 30 分～16 時 40 分
開催の場所	太子町役場 B 301 会議室
出席した構成員	（町長）服部 千秋 （教育委員会委員長）福田 敏博 （教育委員会委員） 福田 幸代 （教育委員会委員） 三浦 淳子 （教育委員会委員） 圓尾 健太郎 （教育委員会教育長）寺田 寛文
出席した説明員及び事務局職員の職及び氏名	説明員（教育次長） 木村 和義 （教育委員会管理課長） 首藤 武司 （教育委員会社会教育課長）渡邊 寧 （教育委員会文化推進課長）田中 みずほ 事務局（総務部企画政策課長） 森田 好紀 （総務部企画政策課副課長）池田 誠
傍聴者	なし
議事	（1）教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について （2）校区ごとの教育の現状と課題について （3）その他
会議の概要（結論）	別紙議事録のとおり
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	次第、構成員名簿、「太子町の教育」
連絡先	総務部 企画政策課 TEL:079-277-5998 FAX:079-276-3892

1. 開会

事務局

(森田企画政策課長)

ただいまから平成 29 年度第 1 回太子町総合教育会議を開催させていただきます。本日の総合教育会議は決議、決定するものではありませんので、私の方で司会進行させていただきますと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、総合教育会議の開催にあたりまして服部町長からご挨拶を申し上げます。

2. あいさつ

服部町長

皆さんこんにちは。今日はお忙しいところ、総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。また平素は、本町の教育行政に種々ご尽力を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。

皆様ご承知のとおり、この総合教育会議は、首長と教育委員会が意思疎通を図ることを目的に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて設置されたものです。教育委員の皆様と、町の教育課題や目標を共有し、その解決策を共に考えていくことは、当町の教育を発展、充実させていくために大変重要であります。本日は短い時間ではありますが、皆様と活発に意見交換をさせていただき、実り多い会議にしたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

事務局

(森田企画政策課長)

ありがとうございました。次に教育委員会を代表しまして、福田敏博教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

福田(敏)教育委員長

皆さんお忙しい中、平成 29 年度第 1 回太子町総合教育会議に参加していただきまして誠にありがとうございます。町長には公務ご多用の中、来ていただきましてありがとうございます。町長のごあいさつにもありましたように、町長と我々教育委員とが学校行政に対して忌憚ない意見を申し上げることによって、教育現場がうまくまわるように、という趣旨のもとで開催されるものです。年に 1 回以上ということで、今回は今日という日になりました。皆さん様々な意見があると思いますが、この場を借りて忌憚のない意見交換をさせていただければと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

事務局

(森田企画政策課長)

ありがとうございました。

では資料の確認をさせていただきます。次第と構成員名簿、そして参考としまして、「太子町の教育」という資料を準備させていただいております。

ここで、この会議の構成員を確認させていただきます。構成員名簿をご覧ください。町長と教育委員 5 名、計 6 名でこの太子町総合教育会議は構成されております。

続きまして、本日の会議の説明員としまして、教育委員会から木村教育次長、それから教育委員会管理課首藤課長、社会教育課渡邊課長、文化推進課田中課長でございます。また事務局としまして、企画政策課森田と池田が担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事録署名委員の選定

事務局

(森田企画政策課長)

それでは、次第の 3、議事録署名委員の選定につきましては、本日は三浦淳子委員と福田幸代委員にお願いいたします。お二人には後日事務局がまとめました議事録をご確認のうえ、署名をお願いいたします。

また、この会議は原則公開となっておりますので、議事録は今後公開させていただきますのでご了承をお願いいたします。

4. 議事

事務局

(森田企画政策課長)

次に議事の 4 の (1)、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についてであります。町では、30 年度予算を編成する作業が今後始まってまいります。今後講ずべき施策につきまして、忌憚ない意見をいただきたいと思っております。どなたからでも結構ですので、ご意見ございましたらよろしくお願ひします。

ちょうど、30 年度の施策を含めて予算要求の時期がまいておりますので、予算を伴うものばかりではございませんが、今後やっていかなければいけないというような新規施策、既存事業でも構いませんので、ご意見がございましたらお願ひします。

福田(敏)教育委員長

議事の (1) とともに、教育の現状と課題についても一部重複するかもしれないのですが、現在斑鳩小学校の北館を整備していただいたのですが、2 階と 3 階のあるクラスがオープンスペースのような形になっております。ある意味斬新な部分でもあると思っております。一方で数年前から、不登校まではいかない、不登校の人数はあまり多くは見受けられないのですが、若干落ち着きのない子と申しますか、授業を集中して聞けないというのが、私が西中学校の P T A 会長をしていた 5、6 年前にありました。1 年生の中で、斑鳩小学校から来た子が落ち着きが無い子が多いという中で、学級崩壊まではいってなかったと思うのですが、人に見られているという中で教育に対して集中することができないという部分があるのかなと思ひました。

他の事例をみると、オープンスペースにしているところもあるのですが、人が来ると自動的に閉められるようなことも聞いています。ある意味開放的ではあるものの、落ち着きがない子が出てきているのも現実としてあるのではと感じます。すぐにといいわけではありませんが、自動的に閉められるような装置をつける等の予算措置を考えていただければありがたいです。

事務局

(森田企画政策課長)

オープンスペースのところが開放的でいいのだけれども、時によっては閉められるような形ができれば、ということでしょうか。

皆さん、今のご意見に対して何かご意見等ございますか。今後教育委員会でも検討していただくという形でもよろしいでしょうか。

福田(幸)教育委員

私も 1 回だけ、斑鳩小学校にオープンスペースができた頃に、女性教育委員の会議があった時に行かせていただいたのですが、隣クラスで先生や意見を言っている児童の声

が結構響いて、隣のクラスまで聞こえていました。当時は画期的、進歩的と言いますか、フリースペースということでオープンな感じがしてよかったのかもしれないのですが、静かになる時がないというか、授業をしても隣の授業が聞こえているような状態だったので、きっちりと閉じられる方が落ち着いて勉強できると思います。

服部町長　　そういう事については、今まで教育委員会の中ではどのように話しをなさっているのでしょうか。

寺田教育長　　今まで予算を計上したことは何回かありますが、その経緯はどうですか。

首藤管理課長　　私が課長になってからも一度、教室の出入り口が全てフリースペース、オープンになってますので、そこは授業がしにくいという声を聞いてますので予算要求をしましたが、今後の検討課題ということで予算計上されずに今日に至っています。

服部町長　　当初は効果があるということで教育委員会がなされたのではないのでしょうか。それをそういう風になっているということで、教育委員会や教育委員の皆様で検証はなさってきているのでしょうか。

寺田教育長　　当時はそういうものが斬新的ということで、たつみや近隣でもされたところが何校かあります。ただそれが広まらないということは、あまり効果がなかったと受け止められて、メリットが無いということで教室は元に戻した方がよいのではないかとということで、数校、私が知っている限りでは1校は元に戻しました。

教育委員会が斬新的な教室ということで、お願いした記憶はありません。

服部町長　　ということは、当時の町当局が、「こういう風にやるべきだ」ということで行ったということでしょうか。

寺田教育長　　どこでどう決まったのかは私は記憶はないのですが、既に私が就任した以前には実施されていたというのが現実です。

服部町長　　メリットが無いと言われているのですが、どういう点が問題なのか。当初はメリットがあるということでされたと思われしますので、どういうところが教育委員会の中で整理していただきたいと思います。2年程前に予算をあげたと言われたのですが、どういうことでメリットがあるのか、ないのか、整理していただかないと、単に予算だけこれをお願いしたいということではなくて、どういう点に問題があるのか、ないのか、どうすべきか、そういう点を、教育委員会内部で、教育委員さんも含めて色々ご議論いただいた上で、狭いセクションに区切ってほしいなど上げていただくほうが、こちらも理解しやすいです。教育委員会の中でもっと話をしていただければありがたいのですが。

事務局 (森田企画政策課長)	<p>先ほどの件につきましては、教育委員会の中で整理していただいて、どういう形で今後やっていくかということを含めて検討していただく形でよろしいでしょうか。</p> <p>では、他にございませんでしょうか。</p>
三浦教育委員	<p>龍田小学校には重度の障害の子がいるのですが、エレベーターがありません。障害者だけではなく、去年に足を骨折した子もいるのですが、その子達が高学年になると3階まで階段を昇らなくてはなりません。そういう面に対して、障害者だけではなく一般の子も怪我した場合とか、教育の中に地域の方が多く入ってこられるのですが、龍田校区だと高齢者も教育の場に入ってきますので、できれば高齢者の方にも校舎内で自由に上がれるような形をとっていただくよう、エレベーターが必要ではないかと思います。学校からの要望もあり、何年か先には改修工事があると思いますが、その際には予算を組んでいただければと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局 (森田企画政策課長)	<p>教育委員会にはそのお話しは何度かされているのでしょうか。</p>
三浦教育委員	<p>できなかったから、何年か前から、障害がある車椅子の子は階段を自動で昇る設備はつけていただきました。ただ、それ以上のことはされていないので、抱えてあがったり、持ち運びも手でしなくてはいけないので、不便かなと思っております。</p>
服部町長	<p>私が町長になって、そのことを聞いたのは私の記憶では初めてなのですが、そういうことについて教育委員会から、「こういうことで必要である」と言われたことはないと思います。教育委員会の中では、どのように話しをなさってこれまでできているのでしょうか。</p>
首藤管理課長	<p>エレベーターの設置につきましては、龍田小学校、石海小学校、太田小学校北館には設備がございません。障害者の子がいる石海小学校、太田小学校については、車椅子のまま乗れる階段昇降機を昨年と一昨年の予算で購入して対応しております。エレベーターの予算についても要望はさせていただいております。ただ、石海小学校にしましても耐震工事が終わった後、エレベーターを、壁を破って設置するというのは強度的になかなか難しい部分があるというのを、営繕の担当からは聞いております。そういった中で現在は、車椅子の子については階段昇降機で対応しているのですが、抜本的な解決にはなっていないので、大規模改修等を見ながら今後検討していきたいと思っております。</p>
事務局 (森田企画政策課長)	<p>他にございませんでしょうか。</p>
三浦教育委員	<p>東中学校の先生から話しを聞いたのですが、中学校プールのトイレがまだ汲み取り式</p>

だそうです。子ども達がプールの際に使うので、できれば水洗式に変えていただきたいとの要望と、グラウンドゴルフをされる方も同じトイレを使われるそうなので、地域性もありますので、そういう面も考えていただいて、改修工事をしていただければ助かります。要望としてお願いしたいと思います。

事務局

(森田企画政策課長)

下水道の枡がつけにくいのかもかもしれませんね。距離がありますし費用的にかかるのかもしれないですね。

三浦教育委員

子ども達が夏の間プールを使ったり、水泳部もあります。まだ汲み取り式というのは衛生的にも悪いかと思えますし、子ども達のことを考えて配慮していただければと思います。

事務局

(森田企画政策課長)

他にございますでしょうか。

福田(幸)教育委員

議事の(1)と(2)が混同するかと思いますが、石海小学校の古い箇所、雨漏り箇所や直すべきところは対応してくださっているので、引き続き教育環境を整えるためにもそういう点はどんどんしていただきたいと思います。それから、以前にも申し上げたのですが、スクールアシスタントとか、支援の必要な障害を持っている子ども、普通学級に入っている子どもがいます。そういった子どもが増えていきますので、臨時で人員を入れてもらったり、スクールアシスタントの方もいらっしゃることで、それによって、先生の方も学習の取り組みを生徒にさせるのも助けになってますし、児童生徒に対しても今人数を増やしてくださってますので、それはすごく助かっているとの話しをお聞きしています。

それはありがたいのですが、今度小学校で英語が入ってきます。現場の先生方も、英語の指導が得意な方もいらっしゃるかも知れませんが、今まで小学校の中ではなかった部分ですので、教科になるともう少し専門的なこととか進め方とか、指導の方法が、研修もしてくださると思いますが、指導力を上げるために、英語の指導をできる方の人員を配置していただけたら助かります、ということはおっしゃってました。

三浦教育委員

それは龍田小学校でも言われていました。英語が入ってくるので、それだけの対応をして子ども達に教える先生が必要なのではないかということで、人員を増やしてほしいということは希望されておりました。

服部町長

それは教育長はじめ次長、課長など教育委員会と話はされたのでしょうか。具体的にその人にどのような事をやってほしいのか、教育委員会の中では、教育委員さんと教育局の中では議論されているのでしょうか。

寺田教育長

議論というのはどのような議論ですか。

服部町長

今日、管理課長にも話しましたし、先週から話しておりますけれども、人を雇ってこれということだけ言われるわけです。具体的にどういうことで、どういう指導をその教員に求めておられるのか、ということも聞いても具体的な答えが返ってきません。

実際に私は先週にも話しましたが、元指導主事を県教委でしていた人と話したりするのですが、具体的に何を求めているのですか、ということも聞かれても、担当の教育委員会から具体的なことを言われていませんので、話しをする時に、詰めの段階で非常に困りました。ですから具体的に、週何回このような指導をしてほしいとか、現場の先生方をどういう風を集めて、どういう研修をするかということについて、教育委員の皆様は教育部局とともに話をなさったことがおありなんではないでしょうか。

人員確保をして、その人に「後は頼みます」という風に言われる姿勢でなくて、教育部局がどういう風にあるべきかということを考えていただいて、その上で人をお願いするというのも非常に重要であると思っております。進め方自体を外部の方にお願いしますという進め方では、どこがオーガナイズしているのか、ということになると思います。そのあたりについて、教育委員会の中で議論をされているのでしょうか。されていないのでしょうか。その点についてお尋ねしたいのですが。

寺田教育長

指導の方法、内容については学校現場が検討しています。中央研修といいまして、県から何名か中央に行ってリーダー養成を行っております。そのリーダーが帰ってきました、今は中核教員を養成しているところです。中核教員が現場に帰って現場の先生を指導していくという段階に今はきております。

それについても、まだ現場は教科書も来ておりません。参考資料も来ていません。それが2月末か3月に配布されます。ですから教員もどのように指導していけばいいのか、どのような内容で研修したらいいのか、ということすら分かっていません。ただ授業を2年後にスタートしなさい、というところで、私ども教育委員会ももちろんですけども、果たしてそれでスタートできるのか、という不安で一杯な先生が、まだ大勢おられます。どの教育委員会もどの現場も手探りで、想像で動いているのが現実でございます。ですので、ちょっと英語の堪能な子と、そういうような先生方がその人達に聞いて、自分の指導力を高めるにはどうしたらよいか、というような現実が今のところだと思います。このままいけば、先生方は2年後に、子どもの前で自信を持ってスタートできるだろうか、指導できるだろうかという不安を持っているのが、今福田委員から出た先生方の現場の意見だと思います。そういう現状であって、議論をしろと言われても、議論のしようがないのが現実でございます。

来年度から最低15時間やりなさい、ということ、そして2年後には5、6年生は70時間やりなさいというようなことです。それで、教科書と評価をしなさいというようなことが、今の喫緊の課題でございます。

服部町長

人を雇うということをおっしゃっているのですが、人を雇って何をするのかということも、教育委員会に聞いてもはっきり答えが返ってきません。仕事が決まっているから

人を雇うというわけですので、仕事の内容がはっきりしていないのに人だけ雇ってくださいう風におっしゃっているわけです。そういうことでは困ると私は思っています。

教員に英語の教え方をこうしましょうとか、年間スケジュールを立てる仕事を依頼しましょうとか、現場との調整においてこういうことをお願いしましょうとか、そういうことについても、私は現状においては、教育部局から聞いたことはございません。しかし人について、人をとにかく雇ってくれと、そういう事が始まるから雇ってくれといわれているわけですが、その交渉をするにあたり、どんな仕事ですかと尋ねても、それははっきりしていない状況で、非常に言いにくいです。

私は当初、県教委の英語の指導主事、私の高校の時の同僚でございますので、そういう人にあたって、昨日や先日も話しをしたのですが、具体的な事柄が見えないので、そういうことも全部任せようとされているのか、何人／日必要なのか。それもする人にお任せということでは、本町教育委員会としての、また教育委員の皆様、こういう風に英語教育を行いたいというお考えをまとめていただきたいというのが私の思いでございます。

指導主事を一人雇うとすれば、給与以外の色々なこともありますので、1,000万円ぐらいみておかななくてはいけない状況になると思われます。

私としては、お金を払う以上、効果のあるようにしていただきたいと思っております。あすかホールで行われている小学校の英語活動にしても、どこまで教育委員会で整理されているのか、どういう風にやろうとしているのか、外部の方に、そちらでやってくださいとお任せしているのか、その方針が、教育委員会としての、管理課としての、社会教育課としての考え方がはっきりと私には見えてきません。そういうことをまとめていただいて、こういうことをやりたいから、こういう仕事をしたいから、こういう人がいるのであるというふうに、ぜひ言っていただきたいと思っております。

寺田教育長

雇う側からすれば、町長のご意見のように、人をみて、こういう人、こういう実力だったらこういう人がいいだろう、と思われるのは確かだと思います。

ただ私たちは英語の専門の教員ではありません。ですから専門の勉強をされている方が、実際に学校に行っていただいて、先生方の実力を見て、この位の程度だったら、この位の資料で、これ位のレベルまで上げたいというような目で見えていただいたら、先生方のレベルが上がってくると思います。

まだまだ、私たちも英語という感覚すらわかりません。もちろん現場で、先生方が子どもの前に立つときに、子どもの力がどれ位あるかわからない、どのようなものを提示してよいかもわからない、ただ資料としては、こういうものを使いなさいというのは3月までには来ると思っています。そういうような中で、「先生方、この資料はこのように使うのが効果がありますよ。」と指導するのが指導主事であって、先生にはこのようなことで発問すれば、これは子どもは返ってくると。でもこれが理解できなければこうなさいと、そういう風に指導していくのが指導主事です。手取り足取りとなって先生方を指導し実力を上げていくということであって、こちらには町長が思われているような課

題すら見えていないというのが現実でございます。

服部町長

教育長が「わからない」ということをおっしゃるわけですけれども、他のやっているところをご覧になるとか、他府県でも私学でもいいですが、見ていただいて、やっているところはどういう現状にあるか、その中で色々見えてくることもあるわけで、そういうことを、もしなさっておられないのだとすれば、そういう事をしないで、指導主事の役割はこうあるべきだ、それは英語の指導主事がやるべきものだと言うのではなくて、教育委員会がそういうことについて考えていただきたいです。それは進化させる段階において、英語のことをやっている人と色々深めていくことは良いことだと思います。もちろん他の教科で行うときもそうだと思いますけれども、教育委員会の方が、考えがあるのであれば失礼な言い方ですけれども、もし無い段階で、外部の方にお願ひします、お任せするというのであれば、教育委員会の主体性というものが問われると思います。どのような事をしようとしているのか、という事を、見もしないでわからない、と言うのはおかしいと思います。教育委員会の事務職の方は、現場のことを知らないから、というのは過去にも聞かされてきました。しかし、現場のことを職員も見させていただき、そして教育長はじめ教育委員の皆様もそういうところを見ていただいて、こういうことがあるなということを体験していただいて、その上で、こういうことについて英語の指導主事をお願いしたいという風に言っていただきたいのが私の思いでございます。

単に予算をつけてください、というのではなくて、予算にはその背後に色々あるわけですから、その上でおっしゃっていただきたいというのが考えです。私も交渉した指導主事というのは、非常に優秀な方です。県教委の指導主事をしていました方ですから。既に兵庫県の職員は退職されていますけれども、話しを持っていくときに、職務の内容がわからないのに仕事お願いしますということ自体が、相手様に対して失礼といえますか、失礼というのが正しい表現かどうかはわかりませんが、仕事は分からないんですけれどもやってもらえませんか、という風になるわけです。それでよく聞いていると、英語以外の事務的な事柄も含めてやってほしいというニュアンスも、どうもありそうに聞こえたりですね。ですから、どういうことをやろうとしているか、それは現場の先生がわからなくても、教育委員会の担当部局はわかっていなければならないことですから、それをちゃんと考えていただきたいという風に思っております。

寺田教育長

担当部局、事務職、行政職に指導内容まで理解せよというのは、ちょっと無理があると思います。揖龍でも各小学校から1名、外国語部会という教科部会というのがあります。この教科部会に各学校から1名出て、絶えず研修とか勉強をして、中堅の教員から指導を受けながら、研修をして、授業を見て、研修の指導方法、内容を3年程前から研修を続けております。なおかつその中でも、指導により効果があるもの、より実力がつくものということで、現場からの要望で自分たちがもっと力をつけたいと、それには専門的な指導が受けたいという要望がきたので、事務局の方からここに予算化してもらいたいという発言だというように私は感じております。

服部町長 専門的な内容というのは、どのような内容を指しておっしゃっているのでしょうか。

寺田教育長 それが私にはわからないので、現場の方で、自分の力をつけたい、資料の提出の仕方だとか、自然な発音の仕方とか。私はむちゃくちゃな発音で覚えているし、今の子ども達はテレビとか、塾とかそういうもので専門的な発音をします。子どもから発音を教えてくれというのも、先生のプライドもあります。先生方のABCからお願いしたい、というようなことも含まれているのではないかと思います。それも一部だと思います。

服部町長 そうなりますと、英語の発音の仕方、音声学になりますけれども、音声学の発音について、色々な発音、正しい発音を、母音、子音、二重母音、長母音、短母音させるということになりますと、それを現場の先生方に、発音の仕方を講座を開いて教えることも職務に含まれるという考えで頼もうとされているのでしょうか。

寺田教育長 私は例えばの話を言ったのであって、それだけをせよと言うのではなくて、そういうこともあるんじゃないかという想像が私にはつくわけです。

町長は英語の専門的な知識があるわけですがけれども、逆にここで物理的な議論をすれば、さっぱり誰もわかりません。他の人は、そういう英語の知識はないわけなんです。その辺のところの不安を解消していただければ、というような現場の意見です。初めての教科なんです。

事務局 (森田企画政策課長) スケジュールといいますか、2年後にはしなければいけないというのは見えていると思うので、その2年後に向けて、他団体も状況が分からない、手探りで進んでいる状況にありますので、今後他団体の状況や動向も調査しながら、今後スケジュールを決めていくというような。

寺田教育長 もちろんスケジュールは決まっております。外国語部会があつて、何回か研修して、その成果がある先生のところで研究授業をして見に行つて研修して、それを持ち帰つてまた学校の中で研修していくということで広めております。

それだけで良いのだろうかという不安があつて、その意味でさらなる専門的な知識がほしい、より効果があるものをもらいたい、先行投資ですね、それが現場のご意見です。ですから、やっていないということではないんです。スケジュールをやっているとは思いますが。それ以外で勉強したいというのが希望なんです。

服部町長 現場には中学校の英語の先生もいらつしやいます。そういう先生方とお話をなされたことはありますでしょうか。

寺田教育長 それは、外国語部会が多分講師として呼んでいると思います。中央研修に行つてリーダー養成されて、その方が各教育事務所に散らばり、そこに各代表が集まり、その代表がまた現場に集まるという、そういう動きの最中です。もっと隅々まで浸透して、どの

先生が5、6年生をもっても同じ力で子どもと向き合える、そこまで力を伸ばしてやりたいというのが学校の現場だと思います。

服部町長

既に中学校に英語の先生もおられますし、そういう方たちと話しをされて、小中どのように連携をとってやるかとか、小学校に中学校の英語の先生が行ったらいけないということもないでしょうし、昨日、元指導主事の先生と話しをしておりましたら、音楽の授業中に、音楽はリズムがあり、また英語にもリズムがありますから、そういうのも取り入れたら、というのも一つの例ですが、具体的な話しをしました。そういう現場の先生方と話しをしていただいた上でないと、どういうことをやろうかという事が、人にお任せでないと私は困ると思います。これに限らず他のことも含めてですけれども、現場を見ていただいた上で話しをしていただく、そして、こういう事が必要であるからこういう人材が欲しいという風にしていただきませんと。例えば正しい発音でも、やり方によって時間など色々変わってきます。音声学の細かな言語まで含めて私は大学で受けましたけれども、一年間かけた中で色々なことをやったわけです。どこまでの発音をさせるか、何を求めるかによってやる内容が違いますので、どういう事を求めておられるのですかと聞いたわけです。そうすると、一人をずっとお願いすることが、それだけの仕事ですが、どのような事を求めるかによって違います。そのことが、雇う側がわかっていないのに、雇え、とを言われているように私には見えます。これは別に教員を経験された方でも、退職された方でも内容によってできることでありますし、お任せという風に見えてなりませんので、もう少し整理をしていただきたいという事を申しています。1,000万円というお金は非常に大きなお金でして、単年度だけでいうと1,000万円ですが、10年間になりますと1億円ということになります。ですから、効果があるようにお金を使いたいと思いますので、内容を教育委員の皆様、また教育委員会で精査していただいて、「ぜひともこういうことを」という風に挙げていただければというのが私の思いです。

事務局

(森田企画政策課長)

予算要求前でございますので、教育委員会の方で取りまとめいただき、意見を調整していただきまして、要求の方をお願いしたいと思います。

福田(幸)教育委員

私の言い方が悪かったでしょうか。今日は意思疎通を図る会ということで、将来的なお願いとか思っていることを、頭の端の方にも置いておいていただきたいという思いもあって言ってますので、具体的でないのは申し訳ないのですが。

英語のことは大切と町長も思ってくださいますので、町長が指導主事の方に話しをしてくださっているのもありがたいのですけれども、こちらも具体的な用意はできていないのですが、将来的に授業数が増えていったらそういう事も本当に必要になるのではないかと、という方向でお話ししました。すぐに予算化してくださいということではないんです。

事務局

先生方が不安を抱いておられますということをおっしゃられたかったということですね。

(森田企画政策課長)

福田(幸)教育委員

不安を持ってらっしゃるということをお聞きいただき、本当にこういう事がもっと必要となったときに、予算が1,000万円かかるということもわかりますので、早めに言わないといけないと思いますので、頭の端に置いていただけたらと思います。

服部町長

予算化のことは既に担当課が言っております。ですから、私の方はすぐに求められています。ただ、話を進めようにも具体的なものがはっきりしていないので困っております。すぐに欲しいとおっしゃっているので、では何を願いますかとお聞きしているのですが、それもはっきりしないから、そういう雇い方はないでしょう、仕事の職務があつて願いますということなので、それも含めてお任せするということが自体が、他の教科だからわからない、例えば先生が音楽として、私が反対の立場で、音楽の先生に誰かをお願いするという事で、その人にお任せという言い方を私はいたしません。こんなことをお願いしたい、だから何日間必要になるであろう、こういう方をお願いしたい、という風になるのであって、私は音楽のことがわからないのでそういう事は言えませんが言われたら、ではどうしたらいいのか、という事になると思いますので、教育委員の皆様もどういふことを現場でやりたいのか、それを現場で動かしているのが教育委員会の部局、教育長をトップとした事務方でごさいます、教育委員の皆様が色々やるべきだということをお考えになって、色々意見の交換を実際に動かしている部局とすり合わせをしていただきたいというお願いです。

事務局

他にございますでしょうか。

(森田企画政策課長)

では、次に移らせていただきます。議事の2番、校区ごとの教育の現状と課題についてであります。太子町には4つの小学校区がございますが、人口が多いところと少ないところ、夜間のお店が多いところ、交通量が多いところなど校区ごとに特性がございます。教育上の課題につきまして、個々に課題等があると思います。共通した課題でも結構ですので、ご意見ございましたらよろしく申し上げます。

校区ごとにお聞きしてよろしいでしょうか。では斑鳩地区から申し上げます。

福田(敏)教育委員長

先ほども申し上げたとおり、議事の1番と2番が重複するという中で、斑鳩校区には大きな店もないですし、近くにお太子さんがあつたり、昨日、一昨日とお祭りがあり、小学6年生が乗り子になってやっているという部分では、色々な意味で地域と学校とが和気藹々という中で、環境に恵まれた学校だなとつくづく思っております。それも、町をはじめ学校関係者、我々も含めて一生懸命これからも教育環境を整えていかなければならないかなと感じておりますが、先ほど申し上げましたとおり、オープンスペースのように落ち着かないという部分が見受けられるのも事実でございます。できる限りやりやすい環境を整えるのも我々の義務、使命かなと考えております。老朽化しているところはその都度修繕していただいておりますので、今まで以上に授業を受けやすい環境をつくっていければ、という風に思っております。

事務局 (森田企画政策課長)	<p>太子町は田舎の部分があれば都会の部分もございますので、両方を兼ね備えた地域とのつながりも持てるところでございます。そういう面で学校の環境整備が重要ということを発言いただいたところです。</p> <p>次に太田地区はいかがでしょうか。</p>
圓尾教育委員	<p>太田校区は子ども達も一番多く、交通や商業施設などにぎやかなものですから、当然先生方もそうですし、私たちもそうですし、地域と学校がタッグを組んで、子ども達が安心・安全に学ぶ環境を整えるのが大事ということで、皆さん全力で取り組んでいただいています。</p> <p>子ども達が多くにぎやかなのですが、オンとオフと言いますか、授業の時はしっかりと聞いて、熱心に先生方もご指導いただいていますし、本当に良い環境だと私は感じております。地域の方もボランティアの方々も子ども達の安全のために、見回りなど色々なことをされています。小さい問題はあるかもしれませんが、あれだけの所帯を抱えた学校が、表立った変な形でクローズアップされるようなことがない状態であるということが、先生方はじめ皆さんが一生懸命していただいていることだと感じています。</p> <p>ソフト面は皆さんの熱意でまかなえたとしても、ハード面はどうしても、先ほどの斑鳩小学校も、どこの学校もそうなんです、老朽化しているところはどうしても、その都度要望させていただいて、修繕していただくということを切に願うものです。こう言うとなんですが、1,000人が使うトイレと、200人が使うトイレだと傷み方も違うでしょうし、ハード面の整備については、どこの学校もそうですが、よろしく願いしたいと思います。</p>
事務局 (森田企画政策課長)	<p>太田小学校は児童数も多いので、地域と学校がきちりと連携しながら取り組まれている部分があると思います。規律もしっかりしているため、授業はしっかりと進められている、ソフト面ではしっかり出来ている部分があるのだけれど、ハード面で修繕の必要性があるというお話でした。</p>
圓尾教育委員	<p>色々な部署から要望は聞かれているかと思うのですが、ぜひともよろしく願いしたいと思います。</p>
福田(幸)教育委員	<p>家が学校から近いので、朝から子どもの放送も聞こえますし、非常に明るい雰囲気、児童も元気で学校生活を楽しんでいます。先ほども言いましたが、臨時職員で手助けに入ってくださっている方も人数が充実しておりますので、その分学習の取り組みが落ち着いてされております。</p> <p>先ほど圓尾委員も言われましたが、ソフト面は先生方の頑張り、ご指導のおかげ、また地域の方々も協力的ですので、地域の行事を通して色々なことを学んでいると思います。ハード面は老朽化の進んでいるところもありますので、それはこれから順々に、きちり整備していただきたいと思います。</p>

事務局
(森田企画政策課長) ソフト面につきましては、先生方の努力で一生懸命やっただいて、子ども達も楽しく学校に通えているという状況です。同じようにハード面では、修繕等が必要になってくるといってお話しです。

龍田地区はいかがでしょうか。

三浦教育委員 龍田地区は小規模になってしましまして、人数が段々少なくなっておりますが、先生方も十分に配慮していただいて、子ども達もすくすく育てております。また、地域性がすごく強いので、地域の方々も学校に対してはすごく協力的です。PTAに関しても、自分達の子どもに対しては力を入れていらっしゃると思います。

あと、少ないからと言って、私たち龍田地区の児童、親に関しては、引け目をとってないと思うので、どこに出て行っても素晴らしい子どもに育てていると思っています。

それと一つ要望なのですが、小学校の中で先生の数が少ないので、昨年まで指導助手の先生が一人いらっしたのですが、今年から一人少なくなって、9月から太田小学校と龍田小学校と交互に来ていただいています。どうしても先生方の出張の時に、先生が少ないので、クラスの補助に入る先生が少なくなってしまう時があるので、そこが少し、学校の先生方は子どもに対して自習とかさせなくてはならないので、その点が今のところ課題かなと、先生が言われておりました。クラスが少なく先生も少ないので、それだけ先生方も色々なところに行って研修等をされていると思います。そこでちょっとひずみが出てきているところがあるかなと少し思っております。

龍田地区は環境も良くて、地域の中でのびのびと子ども達は育てていますので、末永く見守っていただきたいと思います。

事務局
(森田企画政策課長) 龍田地区は児童数が少ないので、地域と一緒に取り組んでいるというところは、十分感じられるところだと思います。

その中で、先生数が減っているというようなお話もありましたけれども、それら全て、今言われた内容で、何かご意見ございますでしょうか。

服部町長 そういった事については、教育委員会と教育委員の方との、ご意見とか説明とかは、教育長、ないのでしょうか。一人減ったとか、そういう状況はこういう理由であるからとか、教育部局との意思疎通はどうなっているんでしょうか。

通常の教育委員会の次第の中で、私も一度傍聴させていただきましたけれども、あれ以外に教育委員の皆様と、そういう事についてのご議論、こういう配置になっているとか、こういうことができそうだとか、そういうご議論については、事務方の教育部局と、この町の教育について色々考えていただく教育委員の皆様と情報交換とか意思疎通はどのようになっているのでしょうか。

寺田教育長 個別の先生方の定数については議論しておりません。
今回はこの人数で、非常勤はこれだけでやっていただきたいというのは、教育委員会

を通じて校長に指示しております。校長の方からは、「これぐらい欲しい」というのも聞いております。そこで配置しています。現場と教育委員会事務局との間で話し合っ、教育委員会の中で、余程の過不足が無い限りは議論は行っておりません。

服部町長

学校現場と教育委員会はそういう意思疎通をされていても、教育委員の皆様こういう実態であるということを含めて、意思疎通していただく必要があるように思います。また、建物を建てるにしましても、学校もありますし他のものもあるのですが、多くのものがこの本町において古くなっておりまして、それをどういう風に教育委員会として、どういう順序でやっていくべきであるということについて、教育委員の皆様も含めて議論をしていただきたいと思います。それぞれの学校が、これも直してください、ここを直してくださいと仮に言われましても、全部するお金がございません。ですから教育委員会の中で、どういう風にすべきかということについて、また、例えば障害を持たれた方がいればこういう風にすべきだ、このケースについてはこうすべきだ、等が色々あると思いますので、それを議論していただいて、教育部局としては予算を要求するにあたりこういう事が必要であるのだと、教育委員の皆様の声をもとめていただいて、調整していただいた上で挙げていただいたらありがたいと思っております。

寺田教育長

町長の指摘があったように、先生の現場との過不足については、現場だけではなくて、教育委員会の中でも議題として提出する方向にいかれたらと思います。それからこの場は、現状をざっくばらんに言う段階であって、必ずしてくださいという強い要望ではなくて、そういうところが老朽化しています、安心・安全を最低限に守って修理するところは予算をつけていただいてやっております、というような報告という次元で留めていただけたらと思います。

事務局

(森田企画政策課長)

今まで色々ご意見いただきまして、ソフト面の充実という部分もございましたけれども、ハード面では今後色々修理しないといけない部分が増えてくるということで、優先順位等も必要な部分もございますので、教育委員会で調整していただくような形をお願いしたいと思います。

議事の2番につきまして、他に発言されたい内容がございますでしょうか。

無いようですので、議事の3番に移らせていただきます。その他につきましては、どのこと、ということではなしに、自由にご意見がございましたら言っていただけたらと思います。

4. 閉会

事務局

(森田企画政策課長)

それでは、特に無いようでございますので、これもちまして、平成29年度第1回太子町総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。